

両親と教師の連絡をめぐって

—主に報告法について—

Association for Supervision and

Curriculum Development, NEA. 1956

幼稚園と家庭が相互に連絡を取ることの重要性は、改めて問題にする必要もない程に考慮されており、その方法も研究されていることと思う。この本では「報告することは相互関係を持つものである」という概念を、両親・教師が理解するまでの過程を例より学び、実際に役立たせ得るように導くものである。対象は学校であるが、幼稚園においても充分参考になるであろう。例に述べられているM校は、生徒についての報告書を中心にして、教師と両親の間で問題を起こした学校である。

(一) 報告法改善の際の

両親・教師の研究

晩秋の午後M校の教師達が緊急会議を開くようになったのは、学校から改善した新しい報告書を出した二日後のことであった。改善された新しい報告書を受け取った両親が次々に教師に不満の意を表したからである。緊張した表情の教師達は熱心に討議を行なったが意見は必ずしも新しい報告法に有利であるとは言えなかった。反対意見としては、長年の学校で教鞭を取っている教師が過去の経験を通じ「この地域の人はどんな報告法を望ん

でいるか、また彼らは根本的变化など考えようとしてもいけない」と述べた。しかし春から報告法改善を研究して来た教師達は怯まず反論した。「この度の失敗は報告法変更の理由を理解していない両親を、新しい報告計画に添わず事の失敗であり、両親が新しい報告法に反対しているのではなく、単に予期せぬ違った報告書を受け取った為の不満である。従って新しい報告書が理解されれば何も困難ではない。改善した理由や、新しい報告書の説明会を計画しなかつた事が失敗の原因である」と熱意を示した。

早速指導委員会を設ける事になった。いくつかのグループが接近出来る場とする為に、PTA役員・学校長・各学年主任教師・教育委員からも会員を出した。

これらの地域の人達と学校側の一か月余の研究の後に、生徒の成長を親に通知する報告法改善の理由も明らかになり、問題解決の方向へと発展した。お互いに子どもの為のよい学校を作ろうということを目指し、両親・教師達は、報告法を理解することが出来た。PTA会長も、共同研究の意義を認め、

熱心に協力した。親と教師の研究会は大成功した。四人の教師は彼らが経験したことを通して次のような生徒の進歩の報告法に関する指導書を編集した。

(二) 報告法の指導——報告の原理

◎報告の目的は同意されるものである。

生徒の進歩報告の目的の明確化は困難を伴う場合が多いが、計画すべてに影響を及ぼすものであるから、目的の相互理解はなるべく早くせねばならない。

今日の教育目的の広範囲化に伴い、子どもの進歩についての報告の目的も大きく変化した。学業成績を記号を用い教師が一方的に報告したものから、子どもの成長の評価をよりよくする為に、教師・親・子どもが関与するものへと移行した。子どもは自分の要求・問題または成長の程度・種類について考え、周囲の者は子どもの能力が身体的・社会的・精神的に成長を続けるのを援助するようにすべきである。

◎報告について理解する為に、両親・教師が共同して計画を發展させる。

学校の方針・カリキュラム内容などに共通の理解を持つことは、親と教師の連絡の際に必要なことである。それらを経て研究された報告法は、常に發展するように研究を続けねばならない。

親と教師が共通の研究の場を得るまでには教師自身が前もって報告の目的・分野・技術を研究し、生徒にも自己の成長に自分が責任を持つことを自覚させ、その後親達とのグループの研究へと場を広めてゆくのが良い。

共通の見解に到達するまでに考慮すべき問題は多く、報告の目的・分野・方法について、子どもの関与の方法、学校の教育理念の表現法などがある。

◎報告事項としては、子どもの成長・発達の事実が利用される。

生徒の要求・学校方針・報告法はそれぞれ関係深い。しかし不理解は發展を妨げるから報告法に先がけて教育方針の明確化はせねばならない。

教師は学校における、両親は家庭における子どもの特徴をよく知っているから、それらの知識を分け合うべきである。

子どもの成長に関する一般的知識も十分な理解の基礎として必要である。

◎報告される成長の種類・性質は同意される。

両親が学校に求めているものは、子どもの情緒的・社会的発達である場合が多い。それには報告内容は単に学業成績では不満足であり、友人との交際技術・態度、美的評価の能力、道徳的価値感の習得の具合、民主生活に積極的に参加する能力の発達など広範囲になる。

◎過去の成長・発達の記録が必要である。

子どもの発達の状態や能力に応じて教師は必要な時には目標を下げることもしなければならぬ。また両親と教師が効果的に交流しようとする前に子どもの身体的・社会的・情緒的・知能的・美的・精神的の生活における情報を得なければならぬ。見落すことの出来ない情報の源として次のようなものがある。

1、累加的記録

過去の背景として必要な学業成績・知的成熟度・興味・健康状態・家族その他の環境などは、現在の子どもの行動の型を意味づける

のに役立つ。それのみか子どもの問題や要求の原因を理解する助けとなる。

累加記録は継続されねばならないから、教師は現在の様子をつけ加える責任がある。

ロ、非形式の観察

両親・教師は非形式ではあるが目的を持つ観察から、子どもの一般的行動型、態度、習慣、周囲の人々との関係を見出せる。社会的・情緒的面をも観察しうる。

しかし、技術を欠くことにより完全になし得ない場合がある。

ハ、会話の記録

行動観察よりも形式的であるが、継続的記録はパーソナリティ発達に関係する情報となる。個人的データーであるので客観性を欠くおそれがあるから注意すべきである。

二、非形式的な会合

両親・教師が集まり、子どもの成長・それに伴う子どもの要求について一しよに研究し子どもを理解しようとするのである。

教師はこの会で生徒の家族との関係・家庭環境・学校外での友人関係・遊びへの興味・社会経験の範囲・健康状態・教養の機会など

の情報が得られる。両親は学校での友人関係・学習態度・成績などの情報を得られる。それのみか両者が親しくなり、家庭と学校の関係を増進する意味で非常に重要である。

教師はこの会の為に前もって準備しておくべきであるが、会においては主催者側にいるよりも聴き手にまわった方がよい。

会の際の子どもの参加法は種々あり、学校によって異なるであろう。会の始まる前に自分達の作品・使っている本などを展示し会場を作ることも一法である。

ホ、書かれた物を通しての連絡

これは主として報告書によりなされる。報告書は断片的でなく子どもの成長全体についてなされねばならない。改善して新しい報告書にしようとする時は、変更の理由を理解出来るようにゆっくりすべきである。

両親への手紙も子どもの成長についてを含んでいる場合は、非常に役立つものである。従って報告書と併用し子どもの発達を助ける

為に両親の取るべき望ましい態度などを記すことと良い。

子どもに問題がある場合には、どのような

問題に直面しているか、原因と思われるものは何か、またそれを解決する為に両親が出来ることは何かなどについての教師の意見が関心を持たれる。

ヘ、相互訪問

両親は子どもに教育資料を与える際、教師と同様の役目をなすことが出来る。学外における指導にあたり、学校側の意図を十分に理解することが必要となる。その為に研究会などの外にも話し合いの機会を得るように努めるべきである。

ト、子どもを通じての報告

学校についての報告を最も頻繁に行なうのは子どもである。夕食後の自由な時間など大部分がそれに当てられる事があるように、報告過程で重要な位置を占める。両親・教師は、子どもにそのことを意識させ能力を養うべきである。

◎報告法に関係する人達の役割は、他の人達に理解してもらおう事である。

両親・教師が力を合わせて研究した時に想像もしない程良い段階に到達出来る。では両親・教師・子どもの役割はどんなものであろ

うか。

(1) 報告の際の教師の役割

知識を持ち理解せねばならないもの

・ 学校の教育方針

・ 子どもの成長発達について

・ 地域社会の性質とその問題・要求

・ 評価・報告さるべき成長の種類・性質

・ 報告の目的

・ 報告に役立つ特殊な技術・工夫

・ 研究せねばならないもの

・ 子どもの背景の事情の集め方・使い方

・ 子どもの現在の発達状態の評価法

・ 発達・進歩の報告法

・ 報告法改善の際の両親・教師の共同研究法

・ 子どもが自己の成長を報告出来るように

援助する方法

(2) 報告の際の両親の役割

・ 両親は種々のことに責任感を持つべきである。

る。

・ 学校計画を理解し、それについての意見

行動をはっきり定める。

・ 子ども全般（特に自分の子ども）につい

て）への深い理解を養う。

・ 子どもの問題・要求を知るべく教師と共に

同して研究する。

・ 学外活動を導き、次の学校計画について

準備出来るよう援助する。

・ 子どもの発達記録を継続的に行なう。

(3) 報告の際の子どもの役割

・ 報告の目的を理解する。

・ 成長・発達について自己の責任を意識し

これを指導してくれるおとなに協力す

る。

・ 個々の要求・問題・能力を理解・自覚する。

・ 両親はじめおとなに自分の発達・進歩を

報告する技術を養う。

・ 個々の進歩評価を教師と共に計画的に行

なう、組織的グループを作る。

報告法に関して以上の事を紹介したが、最

後にその重要性を述べることばをつけ加え

る。

“良き教授法には、教える時よりも評価・報

告の方が大切である”。

(茨城・下妻少友幼稚園 福西百合)

幼児の教育 第五十九巻 第十号

十月号 © 定価 五十円

昭和三十五年九月二十五日印刷

昭和三十五年十月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いいたします。